

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ねむのき		
○保護者評価実施期間	令和6年11月8日		～ 令和7年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和6年11月8日		～ 令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月8日		～ 令和7年2月20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3施設	(回答数) 3施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援経験10年以上の保育士が専門性をもって支援にあたっている。	訪問先施設の方針や都合をお伺いしたうえで課題を共有し、専門的支援に必要なツール等取り入れている。支援後は状況の報告と情報共有を行っている。	・引き続き、訪問先施設の方針等を考慮したうえで、必要に応じ専門的な支援を取り入れていく。先生方と一緒に取り組み、子どもの育ちを支えていけるよう努める。 ・訪問先施設で、適切な支援ができるよう、各研修等で研鑽を積み、知識・技術の向上に努める。
2	発達段階の把握と保護者支援	・ねむのきの児童発達支援を利用している子どもが対象である為、個々の発達段階が把握でき、保育所等集団での課題が抽出しやすい。 ・日頃より保護者とのやり取りがあるので、支援状況報告や情報共有、要望の確認がスムーズに行える。	今後、ねむのきの児童発達支援を利用しない子どもが利用する際には、聞き取りや報告等、丁寧に行っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業の内容周知ができていない。	保育所等訪問支援事業の認知度が低く、訪問について理解いただけない状況がある。	訪問先となる施設に事業についてご理解いただけるよう、わかりやすく説明する。子どもの最善の利益のために、適切に支援ができるよう連携を深めていきたい。
2	保育所等訪問支援利用の保護者に対するペアレントトレーニングの実施。	児童発達支援センターの事業として実施しており、これまで保育所等訪問支援を対象にしていなかった。	保育所等訪問支援のみを利用する場合、どのような形でペアレントトレーニングを行っていくのが検討する。